

平成26年度 佐賀市立嘉瀬小学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
ふるさと嘉瀬を愛し、青藍の心を高め、心豊かにたくましく生きる児童の育成	① 豊かな人間性を育む ② 生活習慣、読書習慣の定着 ③ 確かな学力の向上及び教職員の資質向上

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 豊かな人間性を育む

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	思いやりの気持ちを持って生活できているか。 子どもたちは元気で気持ちのよいあいさつができたか。	・保護者による評価において、「命を大切に、思いやりのある豊かな心の教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。 ・フリー参観デーのアンケートにおいて、「子どもたちのあいさつのはやし」の評価を90%以上にする。	・豊かな心育成部を中心に毎月人権教室を行い児童の人権意識を高める。 ・フリー参観デーに「ふれあい道徳」を設定し、日頃の取り組みを保護者や地域に公開する。 ・あいさつ強化月間を設定し、学級ごとに目標を決めて取り組む。	A	・11月には、嘉瀬町社会人権・同和教育推進協議会と協賛で、「いのちをいただく」の著者坂本義喜さんを招いて食と命について考える講演会を開催した。 ・保護者アンケートにおいて90%の保護者が「学校は、命を大切に、いじめがない、豊かな心を育てる教育に、よく取り組んでいる。」「だいたい取り組んでいる」と答えている。 ・毎週水曜日の朝は、児童会が中心となり、全校児童が交代であいさつ運動に取り組んだ。 ・フリー参観デー保護者アンケートにおいて6月は92%、10月も93%の保護者が「家庭や地域であいさつを、よくしている。」「まわしている」と答えている。	・次年度も命の大切さについて考える講演会等の開催を検討していく。 ・保護者にも呼びかけあいさつ運動を広げていきたい。
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめの早期発見、早期対応ができたか。	・児童アンケートにおいて「友だちとなかよくできた」の評価を90%以上にする。	・毎月1日にいじめアンケートを実施し、児童の状況把握に努め、いじめの早期発見、早期対応に努める。	B	・本年度、いじめと認知した事案はなかった。 ・児童アンケートにおいて87%の児童が「友だちをいじめたり、差別したりしないで、仲良くすることが、よくできた。」「できた」と答えている。	・今年度に引き続き、毎月1日にいじめアンケートを実施し、いじめの早期発見に努めるとともに、不安を持つ児童に対する個別対応を充実させていく。
教育活動	○地域とともに発展する学校	地域連携を柱とした教育活動の実現と広報ができたか。	・保護者による評価において、「地域連携教育に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。	・生活科、総合的な学習および教科等の授業へゲストティーチャーを活用する。 ・新聞等への記事の投げ込み、学校だより、学年・学級便り、ホームページ等を活用し活動の様子を保護者や地域に発信する。	A	・本校の特色である「地域連携教育」については、学校行事と地域行事の連携、学習活動への地域の方々の協力・支援など、学校・保護者・地域が密接に連携した教育活動がスムーズに実施できた。 ・保護者アンケートにおいて96%の保護者が「学校は、地域と共に発展する学校づくりをめざした学校運営に、よく取り組んでいる。」「だいたい取り組んでいる」と答えている。	・児童数・学級数減に伴い、地域と連携した活動の実施方法をカリキュラムレベルで見直しながら実施していく。

② 生活習慣、読書習慣の定着

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○読書習慣の定着	子どもたちに望ましい読書習慣が形成できたか。	・80%以上の児童が、100冊認定証をもらう。	・お勤めの本紹介、必読図書選定で読書を楽しむ環境を作り、100冊読んだ児童には認定証を授与する。 ・「家読」デーを毎月実施し、家庭での親子読書を推進する。	B	・約70%の児童に、100冊認定証を授与することができた。高学年の児童の中に、よく読書をしているページ数が多く100冊を達成できないものもある。	・高学年の児童に対して、8000頁読破認定証を目標にさせるなど工夫し、望ましい読書習慣の形成を進めていく。
教育活動	●健康・体力づくり	子どもたちに望ましい生活習慣が形成できたか。	・毎月1日のノーテレビノーゲームデーの実施率を90%以上にする。	・ノーテレビノーゲームデーを毎月実施し、基本的な生活習慣の定着を図る。	A	・自分で計画を立て、実践することができるようになってきた。 ・90%の児童が毎月1日のノーテレビノーゲームデーを実施することができた。	・家庭の協力が難しい児童への支援と日常化への工夫が必要である。

③ 確かな学力の向上及び教職員の資質向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	基礎学力の向上を図ることができたか。	・児童アンケートにおいて、「授業の内容がわかる」の評価を90%以上にする。 ・保護者による評価において、「学校は学力の向上に取り組んでいる」の評価を90%以上にする。	・算数における児童の実態に応じたTT、少人数指導、個別指導などを計画的に実施する。 ・行事などと関連させ書く活動を工夫する。 ・「家庭学習のすすめ」を作成し、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。	A	・児童アンケートにおいて93%の児童が、「授業の内容が、よく分かる。分かる」と答えている。 ・保護者アンケートにおいて93%の保護者が、「学校は、学力の定着・向上およびコミュニケーション能力の向上に、よく取り組んでいる。」「だいたい取り組んでいる」と答えている。	・家庭と連携し「家庭学習の手引き」をより活用していく方法を検討していく。
学校運営	○教職員の資質向上	授業力向上の研修の充実を図ることができたか。	・担任等全員が研究授業を実施する。 ・初任者研修を全職員の研修の場とする。	・校内研究の計画にそって「伝え合う活動」を取り入れた研究授業を全員がおこなう。 ・全職員が教科主任として初任者研修に関わる。	B	・今年度の校内研究は、生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しをすることとなったため全員授業は行わず、実践記録の作成をした。 ・初任者の研究授業の際は、授業研究会をおこない職員で研修を深めることができた。	・新年度の校内研究の計画にそって、研究授業を全員がおこなう。
教育活動	●ICT利活用教育の推進	教職員のICT利活用教育のスキルアップが図れたか。	・週1回以上は電子黒板を活用する。	・教育情報化推進リーダーを中心に電子黒板の使い方の研修をおこない全職員がいつでも使えるようにする。	A	・全学級に電子黒板が導入され教育情報化推進リーダーを中心に計画的に研修を行い、どの学級でもほぼ毎日活用するようになった。	・さらに研修を深め、ノウハウの共有等、効果的な活用法を検討していく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
特定課題	●小学校低学年の学習環境の改善充実	生活習慣・学習習慣の定着を図ることができたか。	・毎日朝食を取る、明るい返事ができる、正しい姿勢で学習できる、宿題を毎日提出する等の目標達成を「おおむね達成」以上ににする。	・「わくわく」を活用し、具体的な目標を設定し、生活習慣・学習習慣について指導する。	A	・設定した目標すべてにおいて「達成」「おおむね達成」することができた。学級便り等での保護者への啓発、宿題や道具の準備の保護者チェックが効果をあげている。	・学校栄養職員と協力し、食育の授業を行ったり、望ましい生活習慣の形成についての講演会を計画したりして、保護者の啓発に努めていく。

4 本年度のまとめ・次年度の取組

本年度は、3つの重点目標「①豊かな人間性を育む ②生活習慣、読書習慣の定着 ③確かな学力の向上及び教職員の資質向上」を掲げ、学校教育目標の実現に向けた取り組みを全職員で実践してきた。その結果、保護者アンケートにおいては、学校の取り組みに対し、ほとんどの項目で90%以上の保護者が「よく取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」と答え、保護者の満足度は高いという結果がでていた。また家庭での取り組みにおいても、子どもへよく働きかけているという結果が出ていた。これは、学校の取り組みが保護者の理解を得て、保護者への啓発につながっていると考えられる。これらのことから、本校の学校教育目標である「ふるさと嘉瀬を愛し、青藍の心を高め、心豊かにたくましく生きる児童の育成」に迫ることができたと考える。
次年度は、本年度見直した生活科・総合的な学習の時間における地域と連携した教育活動等について、実施しながら改善点について検討していく。校内研究では、全員研究授業に取り組み授業力向上を図っていく。「いじめ問題への対応」「読書習慣の定着」については、改善を加えながら取り組みを継続していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目